



## 2025年度 第1回 ソフィア講演会

### 戦争の時代と私たち ～ジャーナリストに問われるもの～

かもした ごう  
NHK解説主幹 鴨志田 郷氏

今年度第1回の「ソフィア講演会」を6月10日に開催。武力紛争やテロ、国際社会の対応について、中東や欧米、国連で取材を続けてこられたNHK解説主幹の鴨志田氏に、ご講演いただきました。

鴨志田氏は1993年にNHKに入局し、神戸放送局で阪神・淡路大震災の取材を経験されました。その後、国際部を経て、エルサレム支局、ヨーロッパ総局、アメリカ総局で取材を続け、これまでに中東や欧米、国連などを舞台に、国際紛争やテロ、そしてそれらに対する国際社会の対応について幅広く報道してこられました。

今回の講演では、ガザ地区の深刻な状況に焦点が当てられ、命の危険にさらされながらわずかな食料の配給に頼る人々の姿や、薬も不足し治療もままならない医療現場の実情が語られました。生徒たちは深い衝撃とともに現地の現実を受け止めました。

また、ジャーナリストのあり方について自身の経験に基づき、話されました。「対立の善悪を判断するのではなく、その根源に迫る」「権力者だけでなく市民の声にも耳を傾ける」「相手にできる限り近づく努力を惜しまない」「自分がその地に生まれていたらと想像する」など、実際の現場取材してきた鴨志田氏ならではの重みのあることばかりでした。

紛争地ではジャーナリストが標的とされたり、報道の自由が脅かされたりする現状にも触れ、情報があふれる現代においてフェイクニュースやメディアの偏向報道が社会に及ぼす影響について警鐘を鳴らされました。かつて日本も、メディアの扇動によって戦争が正当化され、太平洋戦争へと突き進んでしまった過去があります。「終戦から80年を迎える今、同じ過ちを繰り返さない覚悟が求められている」ということばで、講演は締めくくられました。生徒たちにとっては、報道の役割や世界の現実について深く考える貴重な機会となりました。

#### 世界の現実を報道する意義 ジャーナリストのあり方

鴨志田氏は1993年にNHKに入局し、神戸放送局で阪神・淡路大震災の取材を経験されました。その後、国際部を経て、エルサレム支局、ヨーロッパ総局、アメリカ総局で取材を続け、これまでに中東や欧米、国連などを舞台に、国際紛争やテロ、そしてそれらに対する国際社会の対応について幅広く報道してこられました。

今回の講演では、ガザ地区の深刻な状況に焦点が当てられ、命の危険にさらされながらわずかな食料の配給に頼る人々の姿や、薬も不足し治療もままならない医療現場の実情が語られました。生徒たちは深い衝撃とともに現地の現実を受け止めました。

また、ジャーナリストのあり方について自身の経験に基づき、話されました。「対立の善悪を判断するのではなく、その根源に迫る」「権力者だけでなく市民の声にも耳を傾ける」「相手にできる限り近づく努力を惜しまない」「自分がその地に生まれていたらと想像する」など、実際の現場取材してきた鴨志田氏ならではの重みのあることばかりでした。

## 葉田 順治氏よりトレーニング機器一式を 寄贈いただきました。

本校卒業生でエレコム株式会社代表取締役会長の葉田氏より、トレーニング機器のご寄贈を賜りました。

今回の寄贈は、一個人として「母校の後輩のために」との温かいお気持ちから実現したもので、トレーニングマシン一式に加え、ゴルフ練習用「トラックマン」と操作に必要なWiFi環境の整備もご提供いただいております。

総額1800万円相当となる最新の機器が整備され、生徒たちは日々意欲的にトレーニングに取り組んでいます。心より感謝申し上げますとともに、大切に活用し、生徒たちのさらなる競技力向上と心身の健やかな成長に努めてまいります。



## HEART GLOBAL

—— 歌とダンスでつながる、かけがえのない1日 ——

世界各国から集まった「HEART GLOBAL」のキャストとともに、一つのステージを作り上げるワークショップを開催。ことばの壁を越えてつながる喜びを体感!



## 音楽は世界の共通言語！ 心が通じ合う、みんなが一つになれる

5月1日、「音楽とダンスを通じて、ことばの壁を越えた絆を育む」ことを目的とした国際的な教育プロジェクト「HEART GLOBAL」が開催されました。本校での開催は約10年ぶりです。中学2年生の生徒たちが海外からのキャストとともに、音楽を通じた表現活動に取り組みしました。

ワークショップの冒頭、明るくエネルギッシュなキャストたちの笑顔に迎えられた生徒たちは、最初こそ照れや恥ずかしそうなそぶりでしたが、歌やダンスの練習を通じて、ことばよりも先に届く「まなざし」や「ジェスチャー」の温かさに触れ、少しずつ緊張もほぐれていきました。みんなで作り上げていく連帯感を楽しめるようになり、仲間との呼吸や互いに認め合うしぐさといった大切な感覚を共有していきます。そこには「うまくできるかどうか」ではなく、「本気でつながろうとする姿勢」がありました。

ワークショップを締めくくる発表会では、中学2年生と担任団、キャストが一丸となり、心を込めたパフォーマンスを披露しました。観客席では後輩の1年生たちも自然と立ち上がって体を揺らし、歌い、踊りながらステージと一体に。まさに、音楽が心をつないだ瞬間でした。

生徒たちはこの経験を通じ、英語や異文化への関心を高めるだけでなく、「心を開くこと」「相手を信じて一歩踏み出すこと」のすばらしさを、全身で学びました。ことばの壁を越え、心で通じ合うことの喜びが、生徒一人ひとりの表情や動きにはっきり表れていたように思います。

音楽の力、そして人とつながる力の大きさを、改めて実感した一日となりました。